

図工・美術研究委員会

1. 研究テーマ

「一人ひとりが自己の表現や感じ方に自信を持って、主体的に取り組む図工学習の
ありかた」 — 「鑑賞」学習の可能性を模索して—

2. 研究課題

須坂小学校の学校教育目標（具体目標）は次の4つである。

よく考え実行する子ども（知育） 心豊かで思いやりのある子ども（徳育）

明るく元気でたくましい子ども（体育） ふるさとに誇りを持つ子ども（郷育）

このうちの の具現化のために、本研究が推進された。図工科における鑑賞学習を通して、 については、よく見、よく感じ、よく考え、やりぬく学習の習慣化を図るものである。また については、自分の思いや考えを素直に語れ、また友の意見をしっかり聞き、自分の考えを深めていくことができる人間関係作り、学級集団作りを目指すものである。

3. 指導の実際

実証授業実施日 平成16年11月19日（金） 会場校 須坂小学校

学年 5年松組 授業者 牧田 朋之 教諭

題材名 「ウソつきルソーのすてきな世界」（鑑賞）

- ・須坂小学校では、アンケート等による図工学習における児童の実態の分析を通し、「みる」ことによって表現が好きになったり、鑑賞を通して制作への意欲が高まったりという実態が明らかになった。そこで改めて、鑑賞と表現との関係についての理解を深め、鑑賞活動は子どもたちの意識をどのように変えているのか、鑑賞の充実を図ることで、表現への意欲や技能がどのように変わっていくのかを明確にしたいと考えた。
- ・「鑑賞」活動は以下のように分けて考えられる。A単元の中に位置づける鑑賞活動（導入時鑑賞 中間鑑賞 作品評価鑑賞） B単元に組み込まれず独立した鑑賞（単独鑑賞 環境・掲示型鑑賞） C表現と一体化した鑑賞活動（造形遊び型鑑賞）
- ・授業学級では、さまざまな鑑賞事例を積み重ねてきた。版画における画面構成や強調された表現に気づかせるための中間鑑賞。風景画の導入時に何人かの作家の作品を鑑賞し、多様な表現に着目しながら作品のよさや美しさを感じ、自分の表現に生かそうという鑑賞。風景画の単元末に、作品集を作るためのキャプション（作品解説文）を考えることで作品の見方を深める鑑賞。またそうした鑑賞活動の中で、友だちの意見から自分の見方を深めたり広げたりという場面も多く見られた。こうした鑑賞活動の経験を重ねることで、確実に鑑賞する力がついてきた。
- ・事例を振り返り、目指したい鑑賞活動の指標を次のように考えた。a) 子どもの興味関心をいかに喚起するか b) 子どもの価値観や美意識へのゆさぶりがあるか c) 発想や感性を交換したり共有できる場となるか d) 次の活動に生かせる美的財産を残せるか。

- ・本時の題材においては、「うまく（写實的に）描けないから絵は苦手」という意識であることの多い子どもたちが、ルソーの作品鑑賞を通して、自由な発想で描かれた絵のよさに気づき、自分の表現に自信を持つことの大切さを感じることができるようにという目標で授業が行われた。授業の中では、発見や情報交換が行われやすいようなグルーピングの工夫、学習カード（鑑賞の深まりと、自己評価に関わって）の工夫、発問（鑑賞の深まりの視点を与える）の工夫、授業展開（全体から部分への意識化）の工夫、作者の表現意図に迫れるような場面設定等、いろいろな工夫をして授業が行われた。

4．この事例から明らかになったこと

- ・このような鑑賞学習の積み重ねによって、『写實的に表現できることがよい、そのように表現できないから絵は苦手』というような子どもたちの意識は確実に変化している。作者の表現意図に迫り、そうした表現の意味を考えたり、その時の作者の思いに共感したりすることで、絵の見方が変わり、感じ方も深まっている。小学校の段階でこのような鑑賞の授業を積極的に行うことで、子どもたちの美意識を高めていくことができるだろう。
- ・本時の授業のような純粹鑑賞はよいが、表現をいつもいっしょに考えていきたい。自分の表現にどのように生かされていくかが大切である。
- ・子ども達が自然に自分を出し合えるクラスの雰囲気がとてもよい。日頃の学級作りが授業に生きている。自分の思いを安心して語れる、友だちの思いを大切に受け止められる、そうした学級集団としての育ちが鑑賞学習では大切な要素である。
- ・授業展開について、子ども達の疑問から入ったことはよかった。4人のグループも、話し合いが盛り上がる人数であってよかったと思う。
- ・鑑賞学習にパソコンを使うこともよいのではないか。インターネットでの作品検索、デジカメでの画像取り込み、部分的に見る、拡大して見るなどが簡単にできる。今後の鑑賞学習には大いに活用できそうである。
- ・鑑賞で見せる絵、作品の必然性について。「なぜルソーなのか」等、その必然性が大切である。学校教育目標に照らし合わせ、それぞれの学校の地域性、空間性なども考え、我々の生活の中に存在する作品の鑑賞もしたい。子ども達の発達段階やつきたい力に応じて、各学年ごとに見せる絵、作品などを考えて鑑賞学習カリキュラムが提案できるのではないか。そうした必然性がはっきりしてくると、評価も明確になってくるだろう。

4．来年度への課題

- ・田中統治先生の提案するカリキュラムセンターについて。今回のこうした授業をカリキュラムとして作っていき、だれでも授業ができるように、指導案や資料等を蓄積していきたい。すべての教科・領域でできればよいが、かなりの時間がかかる仕事である。図工の鑑賞領域で、しばって作ってみることはできるのではないか。鑑賞学習のカリキュラムづくりを視野に入れて、研究を深めていけたらと思う。